2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	卒業研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	前期　月曜4・金曜3限	教室名	PCルーム、1204
担当教員	木寺　由美 石澤　宜子・小松　教	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

3年生までの学習を基礎として、ゼミナール計式によって高度な専門的研究をすすめます。的確な論拠に基づいた社会福祉に関わる粘り強い研究をグループですすめ、相互に討議を行い研究の質を高めます。最終的には、卒業研究発表会でのパワーポイントによる発表と、卒業研究論文集に収録する論文を成果物として作成します

《成績評価の方法と基準》

卒業研究の成果物(パワーポイント、論文等)をもとに、到達目標に沿って評価(70%)、出席状況評価(20%)、日常的な専門研究に対する取り組みを評価(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

各グループによって異なりますので、グループの研究テーマに沿って随時紹介します

《授業外における学習方法》

卒業研究では、受講生の研究力量が問われます。PCルームを有効に活用し、自ら研究を行い、研究力量を高めていく努力が特に要請されます

《履修に当たっての留意点》

グループ研究ですので、グループメンバー内で討議しながら研究の質を高める努力が必要です。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループメンバーで討議を行い、テーマ、研究方法が固められるようになる。	過去の卒業研究論文集	各自のテーマを発表できる状態にしておく
		各コマにおける授業予定	グループメンバーの確定		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査担当、論文担当など、担当を決め実行できるようになる。	過去の卒業研究論文集	自分の得意なこと、できることを決めておく
		各コマにおける授業予定	グループ内での担当決め		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーマ発表、研究テーマを固められるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献	グループメンバーでテーマを討議しておく
		各コマにおける授業予定	グループごとにテーマ発表を行い、他のグループの人から意見をもらう		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	先行研究をまとめ、テーマを絞ることができるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献	先行研究の文献を図書館等を利用して調べておく
		各コマにおける授業予定	パソコンを使って先行研究を調べ、研究テーマを深める		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査内容作成、調査依頼作成を通じて調査の流れを修得できるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	研究テーマに合う調査方法を討議しておく
		各コマにおける授業予定	どのような調査をするのかを決め、内容を作成する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査内容作成、調査依頼作成を通じて調査の流れを修得できるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	研究テーマに合う調査方法を討議しておく
		各コマにおける授業予定	どのような調査をするのかを決め、内容を作成する		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	仮調査（クラス内）を実施し、仮調査の流れを修得できるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査をある程度完成させておく
		各コマにおける授業予定	グループごとに作成した調査をお試しでクラス内でおこない、他のグループメンバーから意見をもらう		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	仮調査（クラス内）を実施し、仮調査の流れを修得できるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査をある程度完成させておく
		各コマにおける授業予定	グループごとに作成した調査をお試しでクラス内でおこない、他のグループメンバーから意見をもらう		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	仮調査（クラス内）を実施し、仮調査の流れを修得し、実践できるようなる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査のデータ化方法を決めておく
		各コマにおける授業予定	グループごとに作成した調査をお試しでクラス内でおこない、データ化してみる		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	仮調査（クラス内）を実施し、仮調査の流れを修得し、実践できるようなる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査のデータ化方法を決めておく
		各コマにおける授業予定	グループごとに作成した調査をお試しでクラス内でおこない、データ化してみる		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査を実施し、調査方法の理解を深めることができる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査を行う分担を決めておく
		各コマにおける授業予定	社会福祉科、他学科、あるいは外部の方への調査をすすめる		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査を実施し、調査方法の理解を深められるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査を行う分担を決めておく
		各コマにおける授業予定	社会福祉科、他学科、あるいは外部の方への調査をすすめる		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査を実施し、調査方法の理解を深められるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査日時の調整や他学科、外部への依頼、挨拶をしておく
		各コマにおける授業予定	社会福祉科、他学科、あるいは外部の方への調査をすすめられるようになる。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査を実施し、調査方法の理解を深めることができる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	調査日時の調整や他学科、外部への依頼、挨拶をしておく
		各コマにおける授業予定	社会福祉科、他学科、あるいは外部の方への調査をすすめられるようになる。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査結果をまとめ、調査方法について説明できるようになる。	過去の卒業研究論文集、グループごとの先行研究文献等	集めたデータのまとめ方をグループ内で討議する
		各コマにおける授業予定	調査結果をまとめ、データ化する		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	キャリア設計	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	山田　健太	実務経験とその関連資格	【実務経験】 病院(急性期・回復期)医療ソーシャルワーカー、通所リハビリテーション支援相談員 【資格】 社会福祉士		

《授業科目における学習内容》

相談援助職の基礎となる社会性を身につける。
業界が求めるソーシャルワーカー像を理解する。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト(レポート試験) 70点　(100点満点)
相談援助職とって必要となる社会性及び、各種ソーシャルワーク機能について問う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会人の基礎力109(株式会社 教育企画センター)

《授業外における学習方法》

正しい敬語の使い方、社会人マナーを意識しておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

社会人となる自分を想像し、5年後、10年後の自身の姿を想像してみましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会人についての定義を説明できるようになる。	テキスト	テキスト第1章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(社会人とは)		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	会社とは自分にとって、社会にとってどのような存在か説明できるようになる。	テキスト	テキスト第1章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	会社に所属することとは		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	保険制度の概要について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第1章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	各種保険制度について		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	給与について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第1章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	給与の額面と手取りについて		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	労働時間、働き方について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第1章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	労働基準法について		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	会社に入るということについて説明できるようになる。	テキスト	テキスト第1章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	会社に入るということは		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	会社組織の基本的な上下関係、序列について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第2章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	組織の上下関係とは		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	先輩、上司、取引先との接し方について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第2章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	社会人マナー		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	会社員としての時間管理について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第2章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	時間管理について		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	報告・連絡・相談の重要性について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第2章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	仕事の流れをスムーズにする「ほうれんそう」		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	会社員としての書類作成について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第2章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	書類作成方法		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	組織の中で働くということについて説明できるようになる。	テキスト	テキスト第2章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	組織の中で働くということは		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	終身雇用について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第3章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	入社した会社で一生働きたいという人が増えている現状		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	キャリアパスの考え方について説明できるようになる。	テキスト	テキスト第3章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	知っておきたいキャリアパス		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	ビジネススキルとマネジメントスキルについて説明できるようになる。	テキスト	テキスト第3章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ビジネススキルとマネジメントスキルについて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	その他	授業の方法	演習
科目名	国家試験対策Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	田中　香織	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

成年後見制度をはじめとする権利擁護に係る法制度について実践的に理解し、それを相談援助活動等に活かすことができる。
同時に、国家試験において最低でも6割以上の得点をすることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:『福祉と法学・法教育』 滋慶出版
参考図書:『権利擁護を支える法制度　第2版』　中央法規出版

《授業外における学習方法》

授業中に実施する小テストで正解できなかったところを中心に復習し、すべての選択肢について、どこが誤っているのかを明らかにしておく。

《履修に当たっての留意点》

電子政府のホームページなどを利用して、法律の原文に触れる努力を惜しまないこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	親族，扶養，親権，婚姻について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第1章　民法の親族法 親族，扶養，親権，婚姻について復習する。		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実子と養子について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。 ・主要判例について，最高裁判所のホームページ等で調べておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第1章　民法の親族法 実子と養子について復習し，小テストを実施する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定相続と遺言相続について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，要点をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第2章　民法の相続法 法定相続と遺言相続について復習する。		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	相続法の改正について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。 ・主要判例について，最高裁判所のホームページ等で調べておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第2章　民法の相続法 相続法の改正について要点を整理し，小テストを実施する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	任意後見契約の要件の一つである「代理権を付与する委任契約」について理解し，説明することができる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第3章　委任契約・代理・任意後見契約 任意後見契約を理解する上で必須の概念である「委任契約」と「代理」について復習する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	任意後見契約について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，要点をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第3章　委任契約・代理・任意後見契約 成年後見制度の大きな柱のひとつである任意後見契約について復習し，小テストを実施する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定後見制度について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第4章　自然人，法定後見制度 権利能力，意思能力，行為能力の3つの概念を整理したうえで，後見人等の選任や職務について復習する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定後見制度について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第4章　自然人，法定後見制度 後見人等の同意権・取消権，代理権について復習する。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	法定後見制度について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第4章　自然人，法定後見制度 行為能力に係る制度としての法定後見制度(成年後見，保佐，補助)のまとめを行い，小テストを実施する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「成年後見関係事件の概況」について説明することができる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第5章　成年後見制度・補遺，日常生活自立支援事業 「任意後見契約」と「法定後見制度」の優先関係、「成年後見関係事件の概況」など、いくつかの論点を補足・復習する。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日常生活自立支援事業や成年後見制度利用支援事業について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，要点をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第5章　成年後見制度・補遺，日常生活自立支援事業 日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業について復習し，小テストを実施する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	家庭裁判所の役割について説明することができ，相談援助活動等に活かせる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第6章　権利擁護に係る組織・団体 権利擁護に係る組織や団体について復習する。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	法制度についての正確な理解に基いて，権利擁護活動を実践できる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第6章　権利擁護に係る組織・団体 権利擁護という観点から「児童虐待防止法」「高齢者虐待防止法」「障害者虐待防止法」の三法を復習し，小テストを実施する。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験において最低でも，6割以上の得点をすることができる。	・教科書 ・配布プリント	・弱点を克服し，知識の定着を図る。
		各コマにおける授業予定	「権利擁護と成年後見制度」の総まとめを行い，問題演習を通じて国家試験における得点力の向上を図る。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験において最低でも，6割以上の得点をすることができる。	・教科書 ・配布プリント	・弱点を克服し，知識の定着を図る。
		各コマにおける授業予定	「権利擁護と成年後見制度」の総まとめを行い，問題演習を通じて国家試験における得点力の向上を図る。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	その他	授業の方法	講義演習
科目名	国家試験対策Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	大澤 裕司	実務経験とその関連資格	宝塚市福祉課情緒障害児療育施設任用ケースワーカー(1984～1985)、神戸生命倫理研究会(運営委員)における医療政策調査研究(1988～2014)		

《授業科目における学習内容》

3年次「社会調査の基礎」の習熟度を自己確認しつつ、国家試験形式の問題に慣れるよう、過去問題と予想模擬問題を解く演習を反復する

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基本的に、プリント配布

《授業外における学習方法》

自前の参考書、教科書を参照しながら、特に理解不十分な分野の学説・理論、専門用語を徹底的に習得しなおすこと

《履修に当たっての留意点》

国家試験の実問題を解きながら、3年次に学習した用語や理論の流れ・関連性をつかむよう意識して下さい。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	国家試験出題傾向解説と2023年国家試験(実問題)演習と解説		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	国家試験（実問題）演習と解説、模擬問題と解説		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用力をつけれるようになる。	配布プリント	配布プリントをもとに復習し、疑問点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	国家試験対策Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	前期　金曜4限	教室名	1204教室
担当教員	大澤 裕司	実務経験とその関連資格	宝塚市福祉課情緒障害児療育施設任用ケースワーカー(1984～1985)、神戸生命倫理研究会(運営委員)における医療政策調査研究(1988～2014)		

《授業科目における学習内容》

「社会学と社会システム」の習熟度を自己確認しつつ、国家試験形式の問題に慣れるよう、過去問題と予想模擬問題を解く演習を反復する

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%、出席評価点:20%、平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基本的に、プリント配布

《授業外における学習方法》

自前の参考書、教科書を参照しながら、特に理解不十分な分野の学説・理論、専門用語を徹底的に習得しなおすこと

《履修に当たっての留意点》

国家試験の実問題を解きながら、3年次に学習した用語や理論の流れ・関連性をつかむよう意識して下さい。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	過去の国家試験に目を通して、出題レベルを確認しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験出題傾向解説と問題演習と解説		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験(実問題)演習と解説		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	過去の国家試験　演習と解説		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験の傾向を知り、答え合わせで正解文を筆記して理解できるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	過去の国家試験　演習と解説、模擬問題と解説		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	予想問題で応用問題が解けるようになる。	配布プリント	授業で取り組んだ問題を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	模擬問題と解説		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	地域活動実践Ⅰ(基礎)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対象学年	4年　地域福祉専攻		学期及び曜時限	前期　金曜1・2限	教室名	1204教室
担当教員	中谷　幸子	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

6W3Hを盛り込んだ活動計画書を作成し、計画に沿って活動を実践できるようになる。
企画力、マネジメント力が向上できる。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)
地域活動に必要な知識・技術の習得度合いについて評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

地域活動計画書および活動報告書
随時、講義にてレジュメを配布

《授業外における学習方法》

昨年企画した活動の振り返りをしておく。

《履修に当たっての留意点》

各種マネジメント理論について復習しておきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	6W3Hを盛り込んだ計画書が作成できるようになる。	PC/計画書	学内企画の計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	学内における企画立案		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	地域活動の活動計画の発表		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	準備物品各種	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 (コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践の改善案について提案できるようになる。	PC/プロジェクター 活動報告書	計画書、活動報告書
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践の振り返り （プレゼンテーション、エバリュエーション機能）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践の改善案について提案できるようになる。	PC/プロジェクター 活動報告書	計画書、活動報告書
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践の振り返り （プレゼンテーション、エバリュエーション機能）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	6W3Hを盛り込んだ計画書が作成できるようになる。	PC/計画書	学内企画の計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	学内における企画立案		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	地域活動の活動計画の発表		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	準備物品各種	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	その他	授業の方法	講義演習
科目名	国家試験対策Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	向出　佳司	実務経験とその関連資格	法務省　人権相談員 文部科学省　スクールカウンセラー・臨床ケーススーパーバイザー		

《授業科目における学習内容》

社会福祉士国家試験に向けて模擬問題や過去問題に取り組み、問題文と選択肢を読み解きながら基礎知識を復習するとともに重要語句の暗記を行う。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度)10点　出席点 20点　定期テスト70点　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」 中央法規出版
「社会福祉士国家試験過去問題解説集」 中央法規出版
「社会福祉士国家試験のためのレビューブック」 メディックメディア

《授業外における学習方法》

得意科目と苦手科目を自覚し、各科目ごとに自分なりの勉強方法を決め1科目1点ずつ正答率を着実に上げることを意識して問題に取り組んで下さい。

《履修に当たっての留意点》

勉強を進めるなかで感じた疑問や苦手意識をそのままにせず、向き合いながら少しずつ解消していきましょう。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、過去問の解答解説 社会福祉士及び介護福祉士法		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義①		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義②		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	セツルメント運動		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	アメリカのソーシャルワーク発展史		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	専門職の倫理綱領		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークの基盤と専門職まとめ問題演習		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	システム理論		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	様々な実践モデルとアプローチ		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークの展開過程		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークの記録		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	面接技術の概要		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	グループワーク		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	スーパービジョン		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	過去問題や模擬問題を解き、選択肢がなぜ誤っているのかを説明出来るようになる。	関連資料 参考書	過去問題や模擬問題を解き、出題語句を言語化して説明出来るまで理解を深める
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークの理論と方法まとめ問題演習		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	地域活動実践Ⅱ(応用)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	4年　地域福祉専攻		学期及び曜時限	前期　月曜3限	教室名	1204教室
担当教員	中谷　幸子	実務経験とその関連資格	生活保護法に基づく更生施設にて生活指導員、老人福祉法に基づくケアハウスにて施設長他に従事。介護支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士			

《授業科目における学習内容》

6W3Hを盛り込んだ活動計画書を作成できるようになる。
企画力、マネジメント力が向上できる。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)
ボランティア活動に必要な知識・技術の習得度合いについて評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

地域活動計画書および活動報告書
随時、講義にてレジュメを配布

《授業外における学習方法》

昨年企画した活動の振り返りをしておく。

《履修に当たっての留意点》

各種マネジメント理論について復習しておきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	学内における企画立案	PC/計画書	学内企画の計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	個別の地域活動、ボランティア活動企画		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	地域活動の活動計画の発表		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	準備物品各種	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確認しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 (コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確認しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確認しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確認しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践の改善案について提案できるようになる。	PC/プロジェクター 活動報告書	計画書、活動報告書
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践の振り返り （プレゼンテーション、エバリュエーション機能）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践の改善案について提案できるようになる。	PC/プロジェクター 活動報告書	計画書、活動報告書
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践の振り返り （プレゼンテーション、エバリュエーション機能）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	6W3Hを盛り込んだ計画書が作成できるようになる。	PC/計画書	学内企画の計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	学内における企画立案		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	地域活動の活動計画の発表		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	準備物品各種	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域と協働するソーシャルワーク機能を身につけることができるようになる。	イベント備品類	計画書の内容を確認しておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動実践 （コーディネート、ブローキング、イニシエイト、ネットワーキング機能）		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	卒業研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	4年	学期及び曜時限	後期	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担当教員	木寺　由美 石澤　宜子・小松　教	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

3年生までの学習を基礎として、ゼミナール計式によって高度な専門的研究をすすめます。的確な論拠に基づいた社会福祉に関わる粘り強い研究をグループですすめ、相互に討議を行い研究の質を高めます。最終的には、卒業研究発表会でのパワーポイントによる発表と、卒業研究論文集に収録する論文を成果物として作成します

《成績評価の方法と基準》

卒業研究の成果物(パワーポイント、論文等)をもとに、到達目標に沿って評価(70%)、出席状況評価(20%)、日常的な専門研究に対する取り組みを評価(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

各グループによって異なりますので、グループの研究テーマに沿って随時紹介します

《授業外における学習方法》

卒業研究では、受講生の研究力量が問われます。PCルームを有効に活用し、自ら研究を行い、研究力量を高めていく努力が特に要請されます

《履修に当たっての留意点》

グループ研究ですので、グループメンバー内で討議しながら研究の質を高める努力が必要です。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	分析、考察の検討をおこない、考察できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	統計手法がわからなければ教員に聞いたり、調べたりしておく。
		各コマにおける授業予定	グループの研究の最終的な到達点、研究の限界を整理する。		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	分析、考察の検討をおこない、考察できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	統計手法がわからなければ教員に聞いたり、調べたりしておく。
		各コマにおける授業予定	グループの研究の最終的な到達点、研究の限界を整理する。		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	研究の内容は何度もグループ内で論議し、追加、修正を加えていくこと。
		各コマにおける授業予定	提出日を意識しながら各グループで研究を進める。内容についてはグループ内で深く議論する。		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	研究の内容は何度もグループ内で論議し、追加、修正を加えていくこと。
		各コマにおける授業予定	提出日を意識しながら各グループで研究を進める。内容についてはグループ内で深く議論する。		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	論文の形式を確認し、パソコンにあらかじめ設定しておくこと。
		各コマにおける授業予定	論文は形式に沿って作成する。表やグラフを使い、文体を統一しているかをチェックする。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	論文の形式を確認し、パソコンにあらかじめ設定しておくこと。
		各コマにおける授業予定	論文は形式に沿って作成する。表やグラフを使い、文体を統一しているかをチェックする。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	先行研究、引用文献を整理しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期に調べている先行研究を再度確認し、自分たちの研究の特徴、先行研究との違いを明らかにする。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	先行研究、引用文献を整理しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期に調べている先行研究を再度確認し、自分たちの研究の特徴、先行研究との違いを明らかにする。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	パソコンスキルを高めておくこと。
		各コマにおける授業予定	パワーポイントが視覚的に伝わりやすいものになっているか、グラフや図、配色等も検討し、加筆、修正を加えていく。		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成、パワーポイント作成を通じて、論文を可視化できるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	論文、パワーポイントの作成が遅れないように進めておくこと
		各コマにおける授業予定	研究で最も伝えたいことをグループ内で再確認し、論文、パワーポイントでそれが上手く表現できているかをチェックする。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	パワーポイント発表の練習を通じて、研究で伝えたいことをまとめるられるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	パワーポイントを完成させ、発表のイメージを作っておく。
		各コマにおける授業予定	各グループでパワーポイント発表の役割分担をし、発言内容を決めて練習する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	パワーポイント発表の練習を通じて、研究で伝えたいことをまとめるられるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	パワーポイントを完成させ、発表のイメージを作っておく。
		各コマにおける授業予定	各グループでパワーポイント発表の役割分担をし、発言内容を決めて練習する。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	パワーポイント発表のリハ―サルを通じて、研究で伝えたいことをまとめるられるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	パワーポイントを見やすいように修正しておく。
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表会に向けて、発表の練習を行い、クラスメイトからの助言をもらう。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	パワーポイント発表のリハ―サルを通じて、研究で伝えたいことをまとめるられるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	パワーポイントを見やすいように修正しておく。
		各コマにおける授業予定	卒業研究発表会に向けて、発表の練習を行い、クラスメイトからの助言をもらう。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文を仕上げ、発表用パワーポイントのたたきをを完成させることができるようになる。	過去の卒業研究論文集、各グループの先行研究論文、資料、書籍等	提出に向けて論文、パワーポイントを仕上げておく。
		各コマにおける授業予定	論文、パワーポイント共に、最後まで完成させる。		